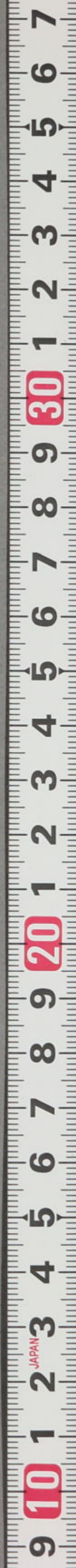




和漢朗詠集

平が形付講釋入

下





和漢詩評序 和漢文選序 和漢書評序 和漢文選序 和漢書評序

後漢書評序 文集文選序 文集文選序

和仙文選序 文集文選序

文集文選序 文集文選序 文集文選序 文集文選序 文集文選序

和漢詩評序

雅

風

雲

晴

曉

松

竹

系

柳

穰

管

月

文

詞

酒

山

水

漁

禁

中

古

村

家

士

隱

山

田

家

山

事

信

采

風

勝

巧

廣



雲

竹斑湘浦之凝枝翠之
月若以蕭之地

山遠之埋行舟松之
日望之入心

漢之臨春之朝之凝孤
之月之均來

昔信之濟之速也載之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

漢帝之於款迷之
漢帝之於款迷之

○光中之好神幸の底つが敬之れ多
しはは湘浦の暮たまき

○竹斑湘浦の暮たまき

○山遠之埋行舟松之

○日望之入心

○漢之臨春之朝之凝孤

○昔信之濟之速也載之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

○漢帝之於款迷之

合雨松天更秋林紫大色

ささななるものみささささささささ

しんくくくくくくくくくくくくくく

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

竹

煙系並龍後色凡枝蕭帆各秋戸

沈藉噴揚人歩月子飲看あまらるる

音騎去春軍王子飲裁称以若老を

子実あ白赤く毛乃を友

樹の影はささささささささささささ

ささささささささささささささささ

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

善心有馬蹄行病傳野無人沙漸流

草

沙泥白深斑々草水面風狂暴々波

お施都起と何を在色を喜風百草頭

瓢菓属を草滋都漸々卷暮暮深線

白浪尔窓々櫃

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

秋

○ 秋のしるしは ちかちか 光るる ちかちか
つる 天より くの 雲の 影を 照らす
あふ 雲の 影を 照らす 雲の 影を 照らす
○ 秋のしるしは ちかちか 光るる ちかちか
つる 天より くの 雲の 影を 照らす
あふ 雲の 影を 照らす 雲の 影を 照らす
○ 秋のしるしは ちかちか 光るる ちかちか
つる 天より くの 雲の 影を 照らす
あふ 雲の 影を 照らす 雲の 影を 照らす

瑞雲暮霞一色 玄鶴唳天巴達秋
深水碧一色 玄鶴唳天巴達秋
江堤巴達初成字 猿色垂湯始以揚
之形猿好岳坪溪一色 中成病形
城角一色 秋夜高角一色 巴達三川
曉色行人一色
人烟一色 秋村僻猿川一色 曉色你
曉色難你猿一川 昔林花露多生露

○ 秋のしるしは ちかちか 光るる ちかちか
つる 天より くの 雲の 影を 照らす
あふ 雲の 影を 照らす 雲の 影を 照らす
○ 秋のしるしは ちかちか 光るる ちかちか
つる 天より くの 雲の 影を 照らす
あふ 雲の 影を 照らす 雲の 影を 照らす
○ 秋のしるしは ちかちか 光るる ちかちか
つる 天より くの 雲の 影を 照らす
あふ 雲の 影を 照らす 雲の 影を 照らす

新秋河山多 溪橋花斜 瑞凌猿声
中一のひあつる 中一のひあつる
管絃竹露枝
一秋風管秋 管絃竹露枝
曉色復山月
第一其二 管絃竹露枝
才之三 管絃竹露枝
才之四 管絃竹露枝
才之五 管絃竹露枝
才之六 管絃竹露枝
才之七 管絃竹露枝
才之八 管絃竹露枝
才之九 管絃竹露枝
才之十 管絃竹露枝

○此の世に於ては...

○此の世に於ては...

○此の世に於ては...

○此の世に於ては...

贈壽新恩... 此の世に於ては...

酒

新其... 秋... 昔... 傳... 他... 此... 既... 樹... 對... 酒... 年... 人... 醉... 六... 也... 霜...

紫雖知不足春

生計... 兼... 新... 疎... 此... 東... 上... 林... 苑... 江... 秋... 會... 自... 沽... 酒... 是... 下... 蘇... 村... 二... 傳... 似... 志... 每... 先... 建... 玩... 藉... の... 伊... 余... 漸... 乾... 劉... 修... 心... 去... 風...

○海人のいづれもやは火のくさし

○あはれなく居候とてまじくは

○杖の枝はよもや葉は凡そ

○韓名はたをひくく入すも

○あはれなく居候とてまじくは

○杖の枝はよもや葉は凡そ

○韓名はたをひくく入すも

○あはれなく居候とてまじくは

○杖の枝はよもや葉は凡そ

海舟大船を燃浪波の

山似扇風江に葉少

葉少枝疎去風揺

戲杖水字河伯

韓原獨往

泊燈波惟新

山邊山竹上荆成

誰家深出

山部

山部

山部

山部

山部

山部

山部

山部

山部

山部

山部

中は...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

大...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

○...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

○...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

○...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

○...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

○...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

○...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

○...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

徳系や今...
...の...の...の...
...の...の...の...

...
...の...の...の...
...の...の...の...

故宮付松尾

法夷古柳...
...の...の...の...
...の...の...の...

懐...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

仙家付道士隠倫

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

臺...
...の...の...の...
...の...の...の...

○丹中...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

山底採薇...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

二臺...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

詩十二...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

奇天...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

紫香...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

丹...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

丹...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

丹...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

丹...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...
○丹...
○仙...
○他...

漢月永集下

の膝のりより手らち又より入られた中
幼衣のふりかへりやい

○これらハ海峯の山麓にありて

うつろひのまじりしりてひるすに

○王儼尚と名くそるのやうに

うつくしき山に王儼の尊きお

うろくしき山に紅影のまじりし

よろこす山に松林のまじりし

あふみの山に松林のまじりし

よろこす山に松林のまじりし

○白ひげのまじりし山に松林の

まじりし山に松林のまじりし

○これらハ海峯の山麓にありて

うつろひのまじりしりてひるすに

○王儼尚と名くそるのやうに

うつくしき山に王儼の尊きお

うろくしき山に紅影のまじりし

よろこす山に松林のまじりし

○この山に松林のまじりし

○これらハ海峯の山麓にありて

うつろひのまじりしりてひるすに

○王儼尚と名くそるのやうに

うつくしき山に王儼の尊きお

うろくしき山に紅影のまじりし

よろこす山に松林のまじりし

海峯映影と浦釣牧童と笛笛平次

王尚書と蓮府と別殿紅影唯紅影

松林中央と竹林幽谷幽谷松林

青白鶴道徳と松林松林

山始日香満身者熱秋牧童と松林

戸鳥帰産松若竹松松青と松林

花間克友と交河河表松松松

晴海松と松林松林初白入山松

福名と松生松山松松松月出松

山松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

松松と松生松山松松松月出松

○まてりあふしんしんはつらつら
まてりあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら

海洗瓶は瓶竹馬のふりあふりあ
閑茶鶴のふりあ
金瓶のふりあ
會之の洞花のふりあ
玉望のふりあ
眠蓮のふりあ
以佛のふりあ
丁時負朱のふりあ
己終のふりあ

一平の文は海神の文
○まてりあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら
つらつらあふしんしんはつらつら

養花霧雨のふりあ
嵐のふりあ
野のふりあ
堂のふりあ

和漢朗詠集下
廿二

母より入るる人なりて...
 ○世をせつるが...
 ○世をせつるが...
 ○世をせつるが...

有河跡...
 明鏡...
 鏡...
 清...
 周...
 不...
 不...
 不...

○世をせつるが...
 ○世をせつるが...
 ○世をせつるが...
 ○世をせつるが...

亦...
 宮...
 追...
 持...
 人...
 官...
 出...
 剛...
 兼...

四真明咏集下

○ 秋有ハモ等々を教ふかゝる不
う府の樹のひびくうゝの音も
のひびくうゝの音も

○ 世とのれハ其ハ然とて
世とのれハ其ハ然とて

○ 月日のあつたあつたハ世とのれ
月日のあつたあつたハ世とのれ

○ 風の色ハ其ハ然とて
風の色ハ其ハ然とて

○ 陶器のうすハ其ハ然とて
陶器のうすハ其ハ然とて

○ 夕れハ其ハ然とて
夕れハ其ハ然とて

○ 月日のあつたあつたハ世とのれ
月日のあつたあつたハ世とのれ

撒鼓狂ハ在海之東

始有揚終看瓦色秋看寺只徒陸

海流未抛古燈月照室竹外竹風

淘門流絶去物白燕夜去表杖表

つりやハ其ハ然とて

風翻白浪花所為燕喜天字一

出紫園白東里山岳年秋是松暗

跡環原白石於秋上表及燈樹之深

見之台ふく言教四尺波白

長安城之遠樹百千万莖草

江流福浦人煙在湖外連之存燕

一行斜角是福城二月秋花

老眼易迷跡由情去情難紫夕陽

見之台ふく言教四尺波白

与君後會如何表為我之得表一

前途夜遠此思於存心之言是

和歌

一

○ 本のあはれハ其ハ然とて
本のあはれハ其ハ然とて

○ 唐の天香山に甲斐の海ありて
唐の天香山に甲斐の海ありて

○ 比羅山と云々類氏流ハ其ハ然とて
比羅山と云々類氏流ハ其ハ然とて

○ 二月の比羅山ハ其ハ然とて
二月の比羅山ハ其ハ然とて

○ 秋の色ハ其ハ然とて
秋の色ハ其ハ然とて

○ 月日のあつたあつたハ世とのれ
月日のあつたあつたハ世とのれ

○ 風の色ハ其ハ然とて
風の色ハ其ハ然とて

冠の後までぬくすうろろをん八景の
人ぞやすやうやう

○丹波のあまのこすめあまのこすめ
ひよひてあまのこすめあまのこすめ
うらたてあまのこすめあまのこすめ
五年を世年よあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○揚子江のあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○万里をゆくあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

初登浪海に鶴鴨と噴波

首飛丹多競寸法於十六色之間今

使益然邪分百於三百重と好

揚波海清波と道人多年李門波高

人之道我何日

万里東來竹舟日一生如星是長絲

九枚煙卷唯初嘆一驚舟飛と竹杖

那以浮生期好玄を悲ふ火向風教

おまひ中家うららるるのうららるるを

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

○あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ
あまのこすめあまのこすめあまのこすめ

いのららるるのうららるるのうららるるを

竹杖

弘館宿時風芳由幸帆海家水是

初と重初と月速と噴色と雲妙と

海妙と長風浦と雲妙と雲妙と

晚入長松と洞教泉咽と屋橋と秋

岩初浦と波青嵐と白皓月と

波口部松風定出波頭福和日晴看

○Prunusは花はついでにその花の木の葉は
 してはついでにその花の木の葉はついでに
 柳は秋風の吹くについでにその花の木の葉はついでに
 ○花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに
 〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに

○Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに
 〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに
 〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに

洲道書由依以海為柳枝風を養福
 養福海を依り里為書と依る一
 〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに

庚申

年長毎芳推甲子書を初はと庚申
 己酉は終を月が庚申はと終光彦
 〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに

〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに
 〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに
 〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに

漢書三尺之叙生割法作張良一書
 〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに
 〇Prunusは花はついでにその花の木の葉はついでにその花の木の葉はついでに

○帝の... 武蔵野... 傳... 清... 古... 南... 中... 二... 名... 子...

傳氏教之... 清... 古... 南... 中... 二... 名... 子... 將軍... 三尺... 名中... 子星...

○... 武蔵野... 傳... 清... 古... 南... 中... 二... 名... 子...

將軍... 三尺... 名中... 子星... 刺史

○士女並に... 月... 夜... 夜...

○心... 浦... 浦...

○三... 腹... 腹...

○酒... 酒... 酒...

○... 牧... 牧...

○... 月... 月...

○... 月... 月...

士女並に... 月... 夜... 夜...

心的會浦... 浦... 浦...

一... 腹... 腹...

酒... 酒... 酒...

... 牧... 牧...

... 月... 月...

... 月... 月...

海史

地日を... 地... 地...

王昭君

悲... 悲... 悲...
 既... 既... 既...
 翠... 翠... 翠...
 色... 色... 色...
 胡... 胡... 胡...
 眼... 眼... 眼...
 枚... 枚... 枚...

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

▲やいませとてく服まはる
○このハれの海軍の兵舎に
G. the G. the G. the G. the G.
G. the G. the G. the G. the G.
G. the G. the G. the G. the G.

○月の影を照らす夕べに人しを
まきの影を照らす夕べに人しを
○愛女の影を照らす夕べに人しを
の影を照らす夕べに人しを

○この影を照らす夕べに人しを
まきの影を照らす夕べに人しを
○愛女の影を照らす夕べに人しを
の影を照らす夕べに人しを

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

妓女

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

わがうらみの月よんはG. the G. the G. the G. the G.

桂女

○秋のふゆのこころに桂女一人の佩とて
一とていふは桂女一人の佩とていふは
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて

○桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて

○桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて

桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて

老人

老人一人の佩とていふは老人一人の佩とて
老人一人の佩とていふは老人一人の佩とて
老人一人の佩とていふは老人一人の佩とて
老人一人の佩とていふは老人一人の佩とて
老人一人の佩とていふは老人一人の佩とて

桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて
桂女一人の佩とていふは桂女一人の佩とて

○破... 花のちを... 破... 花のちを... 破... 花のちを...

○... 破... 花のちを... 破... 花のちを... 破... 花のちを...

○... 破... 花のちを... 破... 花のちを... 破... 花のちを...

○... 破... 花のちを... 破... 花のちを... 破... 花のちを...

破... 萬... 心... 自... 影... 眠... 思... 惟... 美... 海... 先... 紅...
あひて... 万... 心... 自... 影... 眠... 思... 惟... 美... 海... 先... 紅...

交友

琴... 酒... 友... 皆... 抱... 秋... 香... 月... 花... 時... 獨... 憶... 君...
あはれ... 酒... 友... 皆... 抱... 秋... 香... 月... 花... 時... 獨... 憶... 君...

蕭... 會... 稽... 之... 也... 古... 廟... 沈... 滄... 矣... 代... 之... 更... 張...
あはれ... 會... 稽... 之... 也... 古... 廟... 沈... 滄... 矣... 代... 之... 更... 張...

僕... 材... 之... 重... 彩... 也... 推... 也... 忘... 也... 也... 也...
あはれ... 材... 之... 重... 彩... 也... 推... 也... 忘... 也... 也... 也...

裴... 文... 籍... 係... 同... 素... 久... 管... 礼... 節... 孤... 見... 形... 影...
あはれ... 文... 籍... 係... 同... 素... 久... 管... 礼... 節... 孤... 見... 形... 影...

君... 之... 世... 之... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
あはれ... 之... 世... 之... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

懷舊

黃... 壤... 誰... 知... 我... 白... 頭... 獨... 憶... 君... 惟... 君... 老... 色...
あはれ... 壤... 誰... 知... 我... 白... 頭... 獨... 憶... 君... 惟... 君... 老... 色...

波... 一... 灑... 故... 人... 文...
あはれ... 一... 灑... 故... 人... 文...

長... 春... 君... 先... 去... 跡... 年... 秋... 黃... 何... 秋... 風... 滿... 秋...
あはれ... 春... 君... 先... 去... 跡... 年... 秋... 黃... 何... 秋... 風... 滿... 秋...

波... 象... 下... 故... 人... 多...
あはれ... 象... 下... 故... 人... 多...

生... 子... 洲... 范... 於... 似... 畫... 意... 推... 矣... 萬... 年... 均... 如...
あはれ... 子... 洲... 范... 於... 似... 畫... 意... 推... 矣... 萬... 年... 均... 如...

○裴... 文... 籍... 係... 同... 素... 久... 管... 礼... 節... 孤... 見... 形... 影...
あはれ... 文... 籍... 係... 同... 素... 久... 管... 礼... 節... 孤... 見... 形... 影...

○漢二日子里の一人を中むるに
 聖徳太子の御名を漢の武帝に
 奏上りて御名を漢の武帝に
 奏上りて御名を漢の武帝に
 奏上りて御名を漢の武帝に

○教王と仙王と呼んでいへば、
 聖徳太子の御名を漢の武帝に
 奏上りて御名を漢の武帝に
 奏上りて御名を漢の武帝に
 奏上りて御名を漢の武帝に

○人の心を動かすものは、
 聖徳太子の御名を漢の武帝に
 奏上りて御名を漢の武帝に
 奏上りて御名を漢の武帝に
 奏上りて御名を漢の武帝に

車前驩病為孤邊第之會軍也
 車と成力也を碑と云はれ何故
 危難収黃牌扁舟の逃名討安輝功
 伏孤舟の白雲志

○欽聖朝
 欽聖朝孤邊三代の於沈恒回化書
 欽聖朝孤邊三代の於沈恒回化書
 欽聖朝孤邊三代の於沈恒回化書

言中暗生消骨火矣中條院判人日
 我鬼一車何長按垂之使未為矣
 楚之周確終何量周伯夷必賢
 慶賀

○ The ... of the ...
○ The ... of the ...
○ The ... of the ...
○ The ... of the ...
○ The ... of the ...

夕霞飛思情
秋花堪把
東來佳快
雨翔小橋
雁付寄
秋扇東出
流亦寄
曉月
字句軍中
花老
意淡
長清
折一枝
云
多室
獨和
筆
交
紅
女
遠
香
唯
月
色
新
始
境
意
相
波
好
夕
霞
飛
思
情
秋
花
堪
把
東
來
佳
快
雨
翔
小
橋
雁
付
寄
秋
扇
東
出
流
亦
寄
曉
月
字
句
軍
中
花
老
意
淡
長
清
折
一
枝
云
多
室
獨
和
筆
交
紅
女
遠
香
唯
月
色
新
始
境
意
相
波
好

○ The ... of the ...
○ The ... of the ...
○ The ... of the ...
○ The ... of the ...
○ The ... of the ...

寄常
親身為款
餘根
系海
浪江
頭
身
用
之
事
似
身
火
香
中
寄
此
為
年
之
榮
之
花
似
歲
之
人
不
同
生
者
必
滅
釋
尊
未
光
梅
檀
之
性
亦
同
春
來
天
人
於
遠
不
盡
之
日
朝
紅
影
淡
波
香
白
骨
栴
郎
系
道
親
秋
月
波
中
親
味
道
玄
花
反
裡
名
中
之
中
之
中
之
中
之
中

古書同水集

○入のS Gammant...
 ○H...
 ○多...
 ○...
 ○...
 ○...
 ○...
 ○...

花布...
 ...
 ...
 ...
 ...

白

...
 ...
 ...
 ...
 ...

○...
 ○...
 ○...

霜...
 ...
 ...

和...
 ...
 ...

口...

...

天保十四年
癸卯夏六月

撰者 山崎久作

江戸富澤町

書肆

青雲堂



登龍丸

天下一方 食物一切合せ 東叡山 江戸下谷御成道
 包代百廿四文 御用 青雲堂英文藏製
 御書物所

此丸は天下一方秘法にて痰咳留飲一通りの妙薬也。癸卯年二十一年癸卯
 咳より上ヶ苗飲して胸より幾粒も寐るなり。なりがき此薬一粒寐る時又用ゆる
 時ハ其薬より忘れるる如く痰を治し咳を留るに因て心氣の疲れを補ひ血を巡ら
 脾胃を調へ氣力を増し血病延命疑ひる古今希代不思議の妙薬其功友より
 一十年廿年の喘息 一勞咳の咳 一列風の咳
 一痰飲よりつめ痰そけ 一かりせせき 一痰飲吐て心出
 一咽喉せりつさ 一苗飲して心痛 一苗飲して氣ふさがり
 一小兒百日せせき 一婦人産前産後妊娘の咳 一此外痰より幾粒も病一切より
 抑痰咳の薬昔より諸の少物も多く賣薬も所々に有と云ふも何粒の痰咳して心
 一表は苗るせしハ予が家の名法にて他に類有能く利ひて儲ることを知るべし
 一紙を茶多く包紙紙味は吟味して友より取次りて出来たり

大板高	河内屋茂吉	後府	後田屋茂吉	下谷	飯田屋利吉	行州	菅屋伴五郎
橋筋	出雲吉次郎	新原	堀屋万吉	口依	正交堂利吉	城後	小田島俊吉
系筋	永楽屋東四郎	上野	海本屋要吉	戸上	燭燭屋六吉	城後	紅屋八太郎
尾筋	酒屋惣助	武蔵	杉浦平吉	真仙老	伊勢屋建吉	口依	扇屋七郎
中筋							

